

十三峠越えの御礼

「スズメバチがしゃべりよったら僕たちの家に近寄らんといて！！

大きな声で騒ぐのんはやめて！！人間の子どもは大きらいやーって言うで」

これは私たちが今から山道に入ろうとしていた時に会ったおっちゃんのセリフです。そのおっちゃんは、今年はスズメバチの巣が3つあることと、その巣の場所も詳しく教えて下さいました。それで、その3箇所をスズメバチゾーンとして警戒するよう先生たち全員で確認し合いました。スズメバチと友好的に付き合う方法は、以前の十三峠越えハイキングの時にナチュラルリストの方から教わっていました。先生1人に5人位の子どもを1グループとして、巣のそばを静かに通り過ぎるというものです。子どもたちがスズメバチを見つけて「キャーッ」とか、悲鳴をあげないように子どもは下を向いて通過してもらうようにします。この作戦が効果を奏し、誰もスズメバチに刺されることなく全員無事に峠越えをすることができました。もう少しで十三峠というところで、先生たちは「知らぬが仏」という格言を、ズッシリと思い知らされました。

それは峠のトンネルの車道の下の細道を歩いていた時のことです。まず、すずらん組がワイワイガヤガヤと通過しました。すずらん組の一番後ろを歩いていた修平先生が「ナヌーッ」という表情で車道下のコンクリート壁を見上げました。そこには直径30cmくらいのキイロスズメバチの立派な巣がへばりついていたのです。その頃は1、2匹が巣から出てとび交っていました。

それで、ハヤピーはすぐさま5m後方を歩くひまわり組にスズメバチサインを送りました。それは、右手をあげグーに握るというものです。ひまわり組の面々は、一瞬で「ハッ！」という表情に変わりました。またまたグループ毎の通過です。ひまわり組が無事通過した後、ハヤピーが地上4m位の巣を見上げると、約20匹くらいのスズメバチが、巣に群がっていました(おそろしや〜)。何も知らないすずらん組さんは「ひまわり遅いな」って待っていたそうです。

という訳で、今回先生たちは戦時下のように危険一杯の山を、子どもを守りながら歩いたという感じです。でも先生たちが冷静沈着に子どもたちを誘導し、ハチのいない所ではドングリを拾ったりと楽しいひとときを合間合間に入れてくれました。

峠を越えてから平群までの道のりは平和そのもの。白衣を着たマー君先生と岡本スタジオの黒田カメラマンが崖を登り、カラスウリを採取し、子どもたちに喝采を浴びるシーンもありました。

今年は例年以上に神経を使いましたが、杵築神社での「万歳三唱」はとても心地良いものとなりました。

最後になりましたが、保護者の皆様方のご協力に、厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。